

作成日 2019/10/1

改訂日 2026/7/16

安全データシート

1. 化学品および会社情報

化学品の名称	2,3-ジメチルピリジン 2,3-Dimethylpyridine
製品名	2,3-ジメチルピリジン
製品コード	F-017864
SDS 整理番号	ZC19008-04
会社名称	善ケミカル株式会社
住所	東京都台東区台東 2-30-2 善ビル 3 階
電話番号	03-3839-5861
FAX 番号	03-3839-5877
緊急連絡電話番号	03-3839-5861
推奨用途	医薬品等の化学品中間体、原料、樹脂原料、ゴム加硫促進剤等

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性	引火性液体	区分 3
健康に対する有害性	急性毒性(経口)	区分 4
	皮膚腐食性/刺激性	区分 2
	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分 1
環境に対する有害性	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分 3(気道刺激性)
		該当区分なし

注) 上記の GHS 分類で区分の記載がない危険有害性項目については「分類対象外」、「区分に該当しない」または「分類できない」に該当する。

GHS ラベル要素

絵表示またはシンボル



注意喚起語

危険

危険有害性情報

H226	引火性の液体および蒸気
H302	飲み込むと有害
H315	皮膚刺激
H318	重篤な眼の損傷
H335	呼吸器への刺激のおそれ

注意書き

【安全対策】

P210	熱、高温のもの、火花、裸火および他の着火源から遠ざけること。禁煙。
P233	容器を密閉しておくこと。
P240	容器を接地しアースを取ること。
P241	防爆型の電気機器/換気機器/照明機器を使用すること。
P242	火花を発生させない工具を使用すること。
P243	静電気放電に対する措置を講ずること。
P261	粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。
P264+P265	取扱後は手や顔などをよく洗うこと。眼を触らないこと。
P270	この製品を使用するときに、飲食または喫煙をしないこと。
P271	屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
P280	保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

【応急措置】

P370+P378	火災の場合: 消火するために 泡消火剤、粉末消火剤、乾燥砂類、炭酸ガス、水噴霧を使用すること。
P301+P317	飲み込んだ場合: 医療処置を受けること。

- P330 口をすすぐこと。
 P303+P361+P353 皮膚(または髪)に付着した場合: ただちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと。接触部位を水またはシャワーで洗うこと。
 P332+P317 皮膚刺激が生じた場合: 医療処置を受けること。
 P362+P364 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
 P304+P340 吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 P319 気分が悪いときは、医療処置を受けること。
 P305+P354+P338 眼に入った場合: すぐに水で数分間洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
 P317 医療処置を受けること。

【保管】

- P403+P235 換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。
 P233 容器を密閉しておくこと。
 P405 施錠して保管すること。

【廃棄】

- P501 内容物/容器を国/都道府県/市町村の規制に従って廃棄すること。

3. 組成および成分情報

単一物質・混合物の区別

化学名または一般名

慣用名または別名

CAS 番号

分子式(分子量)

構造式または示性式

単一物質

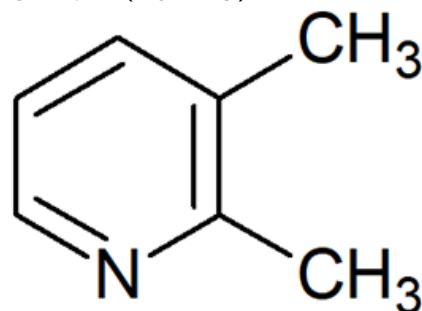
2,3-ジメチルピリジン

2,3-Dimethylpyridine

2,3-ルチジン

2,3-Lutidine

583-61-9

C₇H₉N (107.15)

成分および濃度または濃度範囲

官報公示整理番号

化審法

安衛法

GHS 分類に寄与する成分

99.0 %以上 (GC)

(5)-712

公表化学物質

情報なし

4. 応急措置

一般的な注意

吸入した場合

皮膚に付着した場合

眼に入った場合

飲み込んだ場合

医療処置を受けるときは医師にこの SDS を見せること。

被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。呼吸をしていない場合は人工呼吸をほどこすこと。ただし、口対口呼吸法は避けること。

気分が悪いときは医療処置を受けること。

ただちに汚染された衣類をすべて脱がせ、ビニール袋に入れて遠ざけること。接触部位を水またはシャワーで 15 分以上洗うこと。

皮膚刺激が生じた場合は医療処置を受けること。

汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。

すぐに水で数分間洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

痛みがあっても目をこすらないこと。

医療処置を受けること。

口をすすぐこと。

無理に吐かせないこと。

医療処置を受けること。

急性症状および遅発性症状の最も重要な徴候症状

吸入: 咳や喉の炎症
皮膚: 発赤、炎症
眼: 重篤な眼の損傷
経口摂取: 吐き気、嘔吐、腹痛
反復ばく露により臓器に損傷を与えるおそれがある。
ゴム手袋やゴーグル等の保護具を着用すること。

応急措置をする者の保護に必要な注意事項

情報なし

医師に対する特別な注意事項

5. 火災時の措置

適切な消火剤

小規模の火災の場合: 泡消火剤、粉末消火剤、乾燥砂類、炭酸ガス。
大規模の火災の場合: 大量の水をミストあるいはスプレーとして可能な限り遠方、風上から噴霧すること。

使ってはならない消火剤
火災時の特有の危険有害性

棒状注水
燃焼や高温により、腐食性および毒性のガスおよびヒュームを発生するおそれがある。

特有の消火方法

関係者以外は安全な場所に退去させること。
消火作業は風上の安全な地点から行い、周囲の状況に応じた適切な消火方法を用いること。
周辺火災の際は危険でなければ火災区域から容器を移動すること。
容器が熱にさらされているときは、移動させず、散水して容器を冷却すること。
安全に対処できるならば着火源や、火災を増大させるおそれのあるものを取り除くこと。

消火活動を行う者の特別な保護具および予防措置

消火後も大量の水を用いて十分に容器を冷却すること。
消火後の残骸や消火に用いた消火剤などは河川や排水溝などに流れ込まないように回収し、関係法規に従って廃棄すること。
消火作業の際は、適切な空気呼吸器、耐熱性防護服を着用すること。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置

帯電防止型の個人用保護具(自給式呼吸器、ゴム手袋など)を着用すること。

環境に対する注意事項

漏洩物に触れたりその中を歩いたりしないこと。眼、皮膚への接触や、ガス、ミスト、蒸気などの吸入も避けること。

回収・中和

ミストの発生を避けること。
すべての着火源を取り除くこと。
漏出した場所の周辺にロープを張るなどして隔離し、関係者以外の立入りを禁止すること。

封じ込めおよび浄化の方法および機材

風下の人を退避させること。
十分に換気を行うこと。
低地から離れること。
漏出場所の風上から作業すること。

二次災害の防止策

環境中に放出してはならない。製品が土壌を汚染したり、河川や排水路などに流入しないように注意すること。

不活性材料(例えば、乾燥砂または土など)で漏出物を吸収して、化学品廃棄容器に入れること。

危険でなければ漏れを止めること。

大量の漏出の場合には盛り土などで囲って流出を防止し、ポンプでくみ上げること。

すべての発火源を速やかに取除くこと(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。

静電気対策をほどこすこと。

火花を発生しない安全な用具を使用すること。

排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐこと。

7. 取扱いおよび保管上の注意

取扱い

技術的対策
局所排気・全体換気

安全取扱注意事項

労働安全衛生法等の関連法規に準じること。
屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
蒸気/エアロゾルが発生する場合には、換気、局所排気を用いること。
使用前にすべての安全説明書を入手し、読み、従うこと。
作業員は化学品の取扱いについての適切な訓練を受けていること。
防爆型の電気機器/換気装置/照明機器を使用すること。
火花を発生させない工具を使用すること。
漏れ、あふれ、飛散しないよう注意し、みだりに蒸気を発生させないこと。
できれば密閉系で取扱うこと。
万一 漏れ出たときのために処理工具、処理装置などを準備しておくこと。
容器を転倒させる、落下させる、衝撃を加える、または引きずるなどの粗暴な取扱いをしないこと。
周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止すること。炎や高温のものから遠ざけること。
静電気対策を行うこと。容器を接地しアースを取ること。
万が一火災が発生したときのために適切な消火設備/消火剤を準備しておくこと。
汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
汚染された衣類を再利用する場合は洗濯すること。
空の容器でも内部に製品が残存している場合もあるので取扱いには注意すること。
使用していないときは容器を密閉しておくこと。
取扱い場所には関係者以外の立ち入りを禁止すること。
適切な保護具を着用すること。
ガス、ミスト、蒸気、スプレーなどを吸入しないこと。
皮膚や衣類との接触を避けること。
眼に入れないこと。
口に入れないこと。
この製品と身体とのあらゆる接触を避けること。
この製品を使用するときに飲食または喫煙をしないこと。
取扱い後は手や顔など、露出した部分をよく洗い、うがいをすること。
作業着や保護具は休憩所に持ち込まないこと。

接触回避

衛生対策

保管

技術的対策
混触危険物質
安全な保管条件

容器には不活性ガスを充てんしておくこと。
『10.安定性および反応性』を参照。
容器を密閉し、正しい向きに立てて保管すること。
一度開封した製品を保管する場合は注意深く再封すること。
乾燥していて換気の良い冷暗所で保管すること。
直射日光や火気、熱、スパークを避け、また混触危険物質（酸化剤など）、食料などから離して保管すること。
静電気対策を施すこと。
容器を物理的な衝撃から保護する措置を講ずること。
製品の漏れがないか定期的に確認をすること。
万一 漏出したときに備えて必要な処理剤、処理装置などを準備しておくこと。
火災に備えて保管場所には消火剤などを備えておくこと。
施錠して保管すること。
情報なし

安全な容器包装材料

8. ばく露防止および保護措置

管理濃度
許容濃度等
日本産衛学会
ACGIH
設備対策

未設定

未設定（2007 年版）
未設定（2007 年版）
この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置し、その位置を明瞭に表示すること。
防爆型の電気・換気・照明機器、装置、設備を使用すること。
静電気放電や帯電に対する予防措置を講ずること。

取扱い場所の近くには、高温、発火源となるものが置かれないような設備とすること。
 ばく露を防止するため、装置、機器の密閉化あるいは局所排気装置を設置すること。
 排気装置を付けて、蒸気などが滞留しないようにすること。
 製品に作業者が直接触れたり、ばく露したりしないような配慮をすること。
 非常事態に備えて避難動線を確保しておくこと。

保護具 一般

保護具は使用前にその状態を毎回確認し、傷み・破れその他異常などのないものを使用すること。

呼吸用保護具 手の保護具

必要な保護具は、関連規格に適合したものを選定すること。

防毒マスク、自給式呼吸器、送気マスク等

不浸透性の保護手袋(ネオプレンゴム、ブチルゴム等)。使用後に脱ぐときはその外側が皮膚に直に触れないように注意すること。

眼、顔面の保護具 皮膚および身体の保護具

保護眼鏡、ゴーグル等。状況に応じて保護面を着用すること。

帯電防止型で不浸透性の保護衣。状況に応じ、保護長靴。現場にて取扱う量に応じた適切な保護具を選定すること。

衛生対策

適切な労働衛生および安全基準に従って取り扱うこと。

この製品を使用するときに、飲食または喫煙をしないこと。

取扱い後は手や顔など、露出した部分をよく洗い、うがいをする。

保護具を脱ぐときは、保護具に付着した製品に触れないよう十分に注意すること。
 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

9. 物理的および化学的性質

物理状態

液体

色

無色 ~ 淡黄色

臭い

特有の臭気(ピリジン臭)

融点/凝固点

-17 - -15 °C

沸点または初留点および沸点範囲

161 - 163 °C

可燃性

データなし

爆発下限界および爆発上限界/

データなし

可燃限界

引火点

50 °C (密閉式試験)

自然発火点

データなし

分解温度

データなし

pH

データなし

粘性率

データなし

動粘性率

データなし

溶解度

水

95 g/L (26 °C)

その他の溶剤

汎用の有機溶剤には可溶と思われるが、データはない。

n-オクタノール/水分配係数 (log 値)

1.708 / 1.8991

蒸気圧

データなし

密度および/または相対密度

0.945 (25 °C)

相対ガス密度

0.95

粒子特性

データなし

体積抵抗率(導電率)

データなし

最小発火エネルギー

データなし

解離定数

pKa = 6.57 (25 °C)

10. 安定性および反応性

反応性

情報なし

化学的安定性

法規制に従った保管および取扱においては安定と考えられる。

危険有害反応可能性

本物質は可燃性を有する。

火災により、刺激性もしくは有毒なヒュームやガスを放出する。

燃焼すると分解し、有毒なヒューム(窒素酸化物など)を生じる。

塩基性なので、酸と激しく反応し、腐食性を示す。

強い酸化剤と反応する。

熱、炎、火花、静電気、スパーク、直射日光、混触危険物質との接触

強酸化剤、強酸類

一酸化炭素、二酸化炭素、窒素酸化物

避けるべき条件

混触危険物質

危険有害な分解生成物

11. 有害性情報

急性毒性

経口

明確なデータはないが経口摂取による GHS 区分 4 相当の急性毒性を有するとの情報がある。

経皮

情報なし

吸入

情報なし

皮膚腐食性/刺激性

明確なデータはないが皮膚に対して GHS 区分 2 相当の刺激性を有するとの情報がある。

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

明確なデータはないが眼に対して GHS 区分 1 相当の腐食性を有するとの情報がある。

呼吸器感作性または皮膚感作性

情報なし

生殖細胞変異原性

情報なし

発がん性

情報なし

生殖毒性

情報なし

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

明確なデータはないが単回ばく露による GHS 区分 3 相当の気道刺激性を有するとの情報がある。

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

情報なし

誤えん有害性

情報なし

12. 環境影響情報

生態毒性

魚類

情報なし

甲殻類

情報なし

藻類

情報なし

水生環境有害性 短期(急性)

情報なし

水生環境有害性 長期(慢性)

情報なし

残留性・分解性

情報なし

生物蓄積性

情報なし

土壤中の移動性

n-オクタノール・水分配係数

1.708 / 1.8991

土壤吸着係数(Koc)

88.38

ヘンリー定数

情報なし

オゾン層への有害性

情報なし

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。

焼却処理をする場合はアフターバーナーおよびスクラバーを備えた設備で焼却すること。

その際は引火性が高いため十分に注意すること。

廃棄に際しては適切な保護具を着用すること。

廃棄の前に可能な限り無害化、安定化および中和などの処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にすること。

自らによる廃棄が難しい場合、都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理すること。

廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託すること。

汚染容器および包装の安全で、かつ、環境上望ましい廃棄、またはリサイクルに関する情報

容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行うこと。

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に洗浄、除去すること。

14. 輸送上の注意

国際規制

国連番号

1993

国連輸送名

その他の引火性液体(他の危険性を有しないもの)

FLAMMABLE LIQUID, N.O.S.

国連分類

CLASS 3

容器等級

III

国内規制

陸上規制情報

消防法、道路法の規制に従う。

海上規制情報

船舶安全法、港則法の規制に従う。

航空規制情報

航空法の規制に従う。

輸送または輸送手段に関する

消防法の規定によるイエローカード携行の対象物

特別の安全対策

輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実にすること。

必要に応じて緩衝材なども用いて、輸送時の製品への衝撃が最小限になるようにつとめること。

重量物を上積みしないこと。

輸送時も静電気対策を怠らないこと。

事前に通行ルート of 十分な確認をし、輸送計画をしっかりと立て、無理のない安全な輸送をこころがけること。

運搬中に製品が著しく漏れるなど災害が発生するおそれがある場合には、災害を防止するための応急措置を講ずるとともに、もよりの消防機関その他の関係機関に通報すること。

緊急時応急措置指針番号

128

15. 適用法令

化学物質排出把握管理促進法

非該当

労働安全衛生法

危険物・引火性の物(施行令別表第1第4号)

毒物及び劇物取締法

非該当

消防法

第4類引火性液体、第二石油類非水溶性液体(法第2条第7項危険物別表第1・第4類)

海洋汚染防止法

危険物(引火性の物質)(法第3条第16号、施行令第1条の8別表第1の4)

航空法

引火性液体(施行規則第194条危険物告示別表第1)

船舶安全法

引火性液体類(危規則第2、3条危険物告示別表第1)

港則法

その他の危険物・引火性液体類(法第20条第2項、規則第12条、危険物の種類を定める告示別表)

道路法

通行制限品目(法第46条第3項、施行令第19条の13、平成22年11月18日(独)日本高速道路保有・債務返済機構公示第12号・別表第2)

外国為替及び外国貿易法

輸出品可貨物・補完品目(キャッチオール規制)(法第48条第1項、輸出令第1条別表第1の16の項(2))

16. その他の情報

主な参考文献

安全データシート "2,3-Lutidine" 東京化成工業株式会社 2018/10/14 改訂版

安全データシート "2,3-Lutidine" Ver.5.1 Sigma-Aldrich 2017/9/6 改訂版

オンラインデータ ChemicalBook 2,3-ルチジン 安全性情報

web データベース "ezCRIC+", 2026/7/16 アクセス

記載内容の取扱いについて

記載内容は、現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しておりますが、物理化学的性質、危険・有害性等に

関しては、いかなる保証をなすものではありません。注意事項は通常の実扱いを対象としたものであつて、特殊な取扱いの場合には、新たに用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用ください。

改訂履歴	2019/10/1	作成
	2025/10/20	純度を修正、適用法令を更新
	2025/11/10	製品名を変更
	2026/7/16	最新の情報を基に内容を改訂(GHS 分類、取扱い上の注意など)。